

今月は世界最古の物語を絵本にした3部作をご紹介します。

『ギルガメシュ王ものがたり』1993年 『ギルガメシュ王のたたかい』1994年
『ギルガメシュ王さいごの旅』1995年
ルドミラ・ゼーマン／文・絵 松野 正子／訳 岩波書店 1995年

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★☆☆ 小高学年★★★ 中学生★★☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

古代都市ウルクをおさめていた神であり人間でもあったギルガメシュは、友達がなく孤独だったために残酷な王でした。そんなギルガメシュは美しい歌うたいのシャマトとともにギルガメシュを倒しにやってきたエンキドゥを友とすることができ、人間らしい思いやりのある王となります。(『ギルガメシュ王ものがたり』)

しかし、その幸せがくずれる時がきました。怪物フンババによってシャマトが殺されたのです。二人は力を合わせフンババを倒しますが、女神イシュタルのギルガメシュへの復讐によりエンキドゥが病で死んでしまいます。大切な人を失ったギルガメシュは、「死こそ、この世で、もっとも悪いかいぶつだ」と思い永遠の命をえるひみつをもとめて最後の旅にでます。(『ギルガメシュ王のたたかい』)

かこくな旅のすえ、ギルガメシュはやっと永遠の命を持つウトナピシュティムのもとにたどりつきます。ギルガメシュは永遠の命のひみつを手に入れられるのでしょうか？(『ギルガメシュ王さいごの旅』)

<子どもに手渡すときのポイント>

今から5000年以上前に書かれた世界最古の物語のひとつである「ギルガメシュ叙事詩」を著者が再創造した絵本です。それぞれの巻末には興味深い解説があり、見開きにもそれぞれ工夫がほどこされているので、解説や見開きも紹介してあげてください。物語の中でギルガメシュが手に入れたとされる永遠の命は彼の作った都でしたが、その遺跡よりも鮮明に彼の命を不滅にしているのがこの物語、文学であるという3巻目の解説は図書館員である私にとってとても感動するものでした。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。



子ども図書館
重村 さやか